実施要領　様式５（第７条第２号関係）

自己評価票

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
１．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の特色を考え、自分達に出来る事は何かを話し合い決めた理念としている。	○	定期的に見直しを行って行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は朝・夕の申し送り時に唱和し、職員夫々の中にある介護理念と照らし合わせ実践できるよう、悩んだ時の立ち返る場所と考えるようにしている。	○	唱和を続けていくだけでなく、日頃から夫々の目指す場所が何であるのかを話し合って行きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	館内に明示、パンフレットへの記載は勿論の事、2ヶ月に一度の運営推進会議時に、取り組みの内容を伝えている。	○	ホーム便りへの記載、祭り時地域の方々が集まるときに、ポスターやアナウンスでも働きかけて行きたい。
２．地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の方々や各種団体の実習生を受け入れた際に、気軽にまた足を運んで欲しい旨働きかけを行っている。又サービスに繋がっていく可能性が無い場合にも認知症に関する相談を受け、事業所の持つ専門性や実践体験を地域へ還元する取り組みを行っている。外部者の受け入れ時は、利用者のプライバシーに十分配慮を行っている。	○	町内の行事（季節行事）等へ、その地域出身者を含め参加していく取り組みを行って行きたい。老人会とのつながりを密にして、情報交換を行う取り組みをして行きたい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
	○評価の意義の理解と活用	運営者や管理者は、評価のねらいや活用方法を十		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は、評価のねらいや活用方法を十分理解した上で、職員へその目的を周知させている。一緒に自己評価表に取り組み、今後のサービス向上に向けての改善計画を行っている。	○	評価を受ける事で、振り返りや気づきを得ることができる。皆で作り上げる施設を目指して取り組んで行きたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議出席率は安定している。メンバーへは会議の意義や、役割へのご理解を頂いており、参加者からの提案をもとに行事の取り組みをおこなう事が出来ている。自己評価、外部評価の結果を発表しサービスの質の確保、向上に繋げている。	○	地域のメンバーから知恵と協力を頂き、拾い視野で認知症介護実践に取り組んで行きたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から運営に関する疑問や問題が生じた際には、市町村担当者と連絡を取り問題解決に努めている。	○	電話のやり取りにせず、時々足を運んで情報交換を行っている。今後もつながりを強く持ち、継続して行いたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	町内で活動されている団体を招き、職員のみならず利用者と一緒に学ぶ機会を設けた。	○	必要と思われる方々への働きかけや、情報収集・情報の提供を行って行きたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人のマニュアルに従い、日頃から職員へ虐待防止関連法について学ぶ機会を設けている。管理者も介護現場に立会い、職員と情報を共有し虐待防止に努めている。	○	虐待防止の為職員のストレス軽減を図り、日頃から他害の悩みなどを話し合える環境を強化し、虐待を発見した時に、対応方法を全職員が説明できるよう取り組んで行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前後に関わらず、施設の理解や運営方針について十分な説明をし、理解を求めている。不安、疑問に関しても同様、お互いの不安解消が出来るまで話し合い、納得を得られる様働きかけている。	○	内容に変更が生じた時は十分な説明を行い、理解と納得の上同意を求めている。今後も生じた際には、説明会開催等計画して行きたい。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営者や管理者、職員は常に利用者から意見を聞きだす働きかけを行っており、その中から出た不満や苦情を、運営推進会議で発表している。その他会議の委員を行事に招き、利用者と直接話せる機会を設け、意見・不満・苦情を取り上げている。	○	出された意見や苦情に関しては、速やかに解決し対応、報告を行っている。意見を十分に理解し、運営向上に役立たせて行きたい。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常生活の様子は、面会時や電話にて個々に報告するようにしている。金銭管理の状況については、出納帳へ記録し領収書を添付して、毎月報告している。異動に関しては口頭で説明している。	○	担当職員と家族との連携を深める為、玄関先に職員の顔写真を掲示し、家族と職員の関係を深めて行きたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情受付箱を設置しているが、ほとんど投函される事がない為、来所時気軽に意見・要望を話せる雰囲気作りに努めている。出された意見や要望の内容は、すぐにケアサービスへ繋げている。	○	今後、発生した意見や要望は、広報紙へ記載していき対応内容を公表する事で、新たな意見・要望が出しやすくなる環境づくりをして行きたい。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設運営の基盤は現場にあり、現場で働く職員の意見や提案は、積極的に取り入れている。	○	意見や提案が多く出されるほど、事業が活性化されていくと考え、今後も促して行きたい。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その時その時の状況に合わせた勤務調整を行い、利用者の生活リズム安定に努め、ヒヤリハットや事故防止の為に職員配置するなど話し合い、臨機応変に対応している。又職員の急な休みに対応できるような人員配置を取っている。	○	今後も利用者中心に考えた、勤務調整を行っていく。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動や離職は利用者へ影響が大きい事を理解しており、必要最小限に押さえる事が出来るよう、配慮している。異動や離職が生じた際には、利用者へ十分な説明を行い、新しく担当する職員へは細かな引継ぎと指導を行い、早く関係が築けるよう援助している。	○	離職を最小限に抑えるため、スタッフ同士の人間関係やチームワークを整えて行き、異動が派生した場合は移動後も利用者に顔出しするなど、安心させる為の配慮を行って行きたい。
５．人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を持ち、外部研修で学んだ内容を報告書にまとめ伝達し、ケアに役立てる為の報告会を行い、全スタッフに周知している。勤務で出席できなかったスタッフへも、レポートを配布し周知徹底している。内部研修では部署の他、法人全体の研修会も行っている。	○	職員の成長に合わせた研修を計画し、スキルアップを目指した内容を盛り込み、日々の仕事の中で体験しながら学ぶ事を続けて行きたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を持つ事は、情報交換やお互いに切磋琢磨するための良い機会である事を十分に理解している。地域の協会へ今後加入して行く事を計画している。認知症実践者研修のファシリテーターとして参加し、実習の受け入れを行う事で他法人の職員との交流が図れている。	○	今後は、認知症介護実践リーダー研修修了者を整備して行き、実践者研修のファシリテーターとして参加したり、地域の協会へ加入する事で他法人職員とのやり取りを経験し、気づきを得る為同業者と交流する機会をスタッフへも行き渡るように取り組んで行きたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々のストレスを軽減する為、業務は同ユニットに固定せずに、別ユニットにも勤務する日を設けている。又定期的に面談を行い、悩みや抱えている問題等を直接聞く機会を設け、原因の解消に努めている。	○	スタッフ同士のチームワーク意欲を高める為にも、仕事以外の時間に交流を持てる場を設定し、日頃のストレス発散や、同じ働く物同士の悩みを打ち明ける機会を設けて行きたい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は常に管理者や職員の日々の努力、勤務状況を把握し、保有資格と実績を生かした職員配置を考え、就業規則を周知させている。健康診断の実施は勿論の事インフルエンザ予防接種の助成金を準備している。職員に健康もしくは家庭事情で休暇を要する場合には、十分な理解を示し必要な休暇を与え、仕事に復帰できるように働きかけている	○	職員の自己努力は勿論の事、運営者からも資格取得に向けての呼びかけや、情報提供など必要に応じて研修会への参加を促している。今後も行って行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の事前面談を持ち、家族から要請があれば何度でも自宅へ訪問し、申込者のみならず同居していた家族それぞれの不安や要望を伺い、利用者本人に適するサービスがどこにあるのかを検討しながら利用につなげている。	○	施設の様子を良く知っていただく為に、利用前の施設見学を積極的に勧めて行きたい。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みにいたる以前に、利用者の身体状況や精神状況を把握し、本人と家族に必要とされる支援が何であるのかを見極め、関係機関との連絡を取りながら、適するサービスへの移行や施設利用までのプロセスを援助している。	○	事例は少ないが、地域包括支援センターとの連携も図って行きたい。
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が納得して施設利用する事が、一番の安定した生活を送れることであると実感している。利用前に本人と家族が良く相談し、施設利用を決定していただく事を前提とし、利用開始からは一日も早くなじめるように、利用者や職員の交流を多く持ち、家族のこまめな面会を促している。	○	利用前に知りえた情報のみでは、利用者の認知症状に対応しきれない事もある為、利用後も家族からの情報収集に努め、利用者の理解を深めケア拡大に努めて行きたい。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を介護しながら、共に生活しているという意識を持ち、家族と同じ立場にはなれ無い事を十分理解しながら、共に支えあい生きているという実感を持ち、お互いの人間関係を築き上げている。	○	仕事に対する意識が職員個々に違う中、利用者と共に過ごし支えあう関係作りをする為、今後も意識作りや自己啓発に努めて行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に、利用者についての情報を共有し、ケアへの気づきを得ながら一緒に認知症ケアを実践している。ケア後の反応について共に喜怒哀楽し、いっしょに支えあう関係を築いている。	○	常に前向きな姿勢で、利用者本人の現在を家族と共に直視し、必要なサービス展開をして行きたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	離れて暮らし始めた事がきっかけで、関係良好になったり、疎遠になる可能性を持っている。これまでの家族関係を十分に理解した上で、間に施設が入ることの重要性を考え、より良い家族関係が築き上げられるように支援している。	○	本人と介護してきたキーパーソンの思いを十分に理解し、共に暮らした家族も安心して暮らせるように、全体のより良い関係作りをして行きたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が望む馴染みの場所や人を把握する努力を重ね、利用者から希望等が出された場合には、付き添い外出の援助を行い、これまでの生活に欠かすことの出来ない場所や、人との関係が途切れないように支援している。	○	加齢と共に外出への意欲が低下している。外出は無理強いしない代りに、本人と家族がのぞむ地域や友人の面会を積極的に受け入れて行きたい。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に共同作業をすることをきっかけとし、互いにかかわりをもつ機会を増やしていくことで、自然と仲間意識が生まれている。関係作りの難しい方には、職員が間に入り係わり合いがもてるように支援している。	○	仲の良し悪し等を把握し、同ユニットでの生活困難さが生じた場合は、家族と相談しながら援助して行きたい。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も、相談・支援に応じる姿勢を示している。又退居後の本人の様子を伺ったり、退院後の行き先に不安を感じている家族の相談に応じ、関係機関と連絡調整をとるなど、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。	○	今後も継続して行ってゆく。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の暮らしに対する希望や要望を把握できるよう、常に心掛けている。訴えの困難な方の場合は、利用者の気持ちに立って考え、家族などから情報を収集し検討している。	○	利用者ひとり一人の意向を把握するために、利用者と家族、職員の関係を強めて行きたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に、本人・家族と直接会い聞き取りし、担当ケアマネジャーから情報を頂き、把握に努めている。	○	基本情報となる為利用前の聞き取り時には、管理者のみでなくスタッフも同行して行って行きたい。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	これまでの生活暦と、利用者の一日を観察し得た情報を基に、流れを把握し、利用者の特徴や性格、認知症のリズム等を把握している。	○	出来る能力に応じた作業を提案したり、話を引き出したり等の働きかけを毎日行って行き、現状の維持に努めて行きたい。
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画の実施期間更新時のみでなく、利用者の大幅な状態変化が生じたときは見直しを行い、本人と家族の意向、全職員の気づきなどを取り入れて作成している。	○	介護計画＝利用者と、すぐに誰のものか手にとって分かるような、内容の深い介護計画を作って行きたい。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは、職員の自己判断にならないよう利用者本人や家族、関係者に尋ね意見や気づきを得ながら作成している。又計画段階には無かったことが、重要なポイントに変わることもあるので、十分な話し合いを持ち現状に即した新計画を作成してる。	○	職員が目を通しやすいように、個人ケースのみではなく、個別申し送りにも添付するようにしている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細やかな様子を具体的に詳しく記録するようにし、個別にファイリングしている。職員の気づきを共有するため、個別申し送りを利用し、担当職員から全スタッフへの呼びかけや気づきが得られるように工夫している。	○	個別記録の残し方を研究し、介護計画が実践されたかの結果が、一目でわかるような工夫をして行きたい。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整えており,利用者と家族の要望により、医師と看護師との連絡調整や往診対応もスムーズに行える体制をととのえている。又外出泊などで家族が送迎困難な場合は、要望に答えて施設送迎対応など柔軟に対応している。	○	外出の際、家族と共に出かけるのが困難になっている利用者が増えている。施設の行事一環として、利用者と職員のみが外出するのではなく、家族も参加型で楽しめる機会を増やして行きたい。
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方々や民生委員の方々への協力を依頼し、法人として警察、消防又各種学校団体等と協力しながら、地域ぐるみで利用者を支援していく態勢が出来ている。	○	地元（近隣住民）の方々が、気軽に足を運び日頃から交流がもてるよう、更に呼びかけて行きたい。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、行政独自で行っているサービスが、施設入居者に対して適合しているものが無いため、利用していない。	○	今後体制が整えば、必要に応じて検討して行きたい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度の必要がある場合、関係機関や地域包括支援センターとの協議や、連携をとる体制が整っているが、現在利用対象者が居ない状態である。	○	今後、対象者が発生したときはスムーズに援助できるよう支援して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前に通っていたかかりつけ医を受診できるよう援助している。又利用者の症状に合わせ、かかりつけ医変更になる場合にも、利用者・家族が十分に納得した上での受診を勧め、医療機関との連携を持ちながら適切な医療を受けられるよう支援している。受診結果に変化が見られるときは、家族へこまめな報告を行っている。	○	医療連携を図れる医療機関以外にも、気軽に相談できるよう取り組んで行きたい。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医への受診が必要な利用者は、定期的並び随時受診を行い、認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	○	医師と職員とのやり取りだけでなく、必要に応じて家族が医師から直接診断を聞く体制を続けて行きたい。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	正看護師の配置を行い、２４時間体制で相談できる状態になっている。	○	各種様々な医療機関の内容と、利用者の状況把握が必要なため、緊急時に備えて看護師の記録作成を検討している。
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した際には、環境の変化に速くなれるため、サマリーの提出や情報交換を行っている。又退院後の行き先について、医療機関や家族から情報収集、現状把握をし再度施設へ受け入れるなどの体制が整っている。	○	長期入院で一度退居になった利用者が状態安定し、再入居した辞令がある。今後も引き続き対応して行きたい。
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化が進んできたときには、本人や家族の意思、かかりつけ医の助言を基に、終末期への方針を確認している。終末期の利用者を抱える家族へは、家族同士の話し合いを十分に持っていただき、結果を出していただくように働きかけている。	○	施設で終末を迎える利用者、家族の為に更に終末ケアの認識と知識を深めて行きたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化、終末期の利用者に対しては、家族と入念な相談をし施設で行える範囲を十分に知っていただき、主治医への相談を重ねながら必要であれば医療機関への入院や、施設で最後を迎える事を決定された場合は、全ての関係者が一丸となってケアを実践できるように、働きかけ実践している。	○	施設は延命する機関ではないため、終末に向けて本人、家族の意思決定を早い段階で決めて行けるように援助、助言を続けて行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	全職員は利用者が環境の変化に敏感であることを十分に理解しており、ダメージを最小限にする為、職員の情報共有や、家族へ強力を依頼し綿花の促進をするなどの働きかけを行っている。	○	入居後、長時間一人で過ごすことにならないよう、本人の希望にあわせ家族と情報交換しながら、早い段階で他利用者と顔なじみになれるように援助を続けて行きたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報の保護、プライバシーの確保は徹底して行われている。利用者の羞恥心や自尊心を傷つけない言葉がけや対応に配慮している。	○	今後も継続して行きたいと思っている。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	洗濯食や家事手伝いなど、利用者が自己決定する機会を作るように工夫している。意思表示が出来ない場合でも、利用者の能力を見極め係わり合いを多く持ち、表情や態度から把握するようにしている。	○	自ら家事に参加できるように、作業内容を分かりやすく工夫したり、相撲の星取り等利用者の力量に合わせ、自己決定を促す場面を多く取り入れて行きたい。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活習慣に合わせた一日の流れを作り、自分の空間が持てるように支援している。利用者のひとり一人の状態やペースを大切にし、業務を優先することなく、その日の希望、身体・精神状況に合わせた柔軟な支援を行っている。	○	その日の身体・精神状況に合わせて、行事・レクリエーションへの参加、起床時間・食事・就寝時間など、場所や時間にこだわらずに対応している。今後も継続していく。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が望む理美容店へ行くことが出来るよう、施設側で調整を取り行っている。時には家族との交流をかねて家族に協力依頼し行っている。その他月１回、施設に町内の利用組合の方が理髪に来ていただいており、その際に希望される方は馴染みの理容店の方に、散発をして頂いている。外出時も一緒に外出着を選びおしゃれをして出かけてい	○	今後も継続して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を考え、季節の食材をふんだんに使用し支度から後片付けまで一緒に行っている。	○	手作りおやつ等、積極的に取り入れていき、昔ながらのおはぎやしとぎ餅作りなど、利用者に作り方を教えてもらいながら進めていく作業を、積極的に取り入れて行きたい。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好調査を行い、一目でわかるように調理場に一覧表を張り出し、食事提供する際の目安としている。飲酒・喫煙者が現在利用していないため、今のところは実施されていない。	○	利用者の誕生日に、その日の献立に嗜好品を一品提供できるようにしてる。飲酒や喫煙の希望者が利用した際には、安全の確保や他利用者へ迷惑にならないように配慮して行きたい。
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者ひとり一人の排泄パターンに応じて、排泄の失敗体験の軽減と気持ちよい排泄の支援を実施している。	○	ひとり一人の排泄パターンを随時記録し、利用者の状態に合わせた排泄用具の提供を考え、自立または軽減できるような取り組みを続けて行きたい。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも利用者の希望にあわせ入浴できるように支援している。大浴場とユニットバス、両方で温泉を楽しむことが出来るようにしている。その他、併設施設に設置されている足湯場も利用できる。	○	大浴場の利用は、利用者の楽しみとなっている。その他シャワー浴の実施や、定期的に足湯を利用する機会を増やしていけるよう働きかけて行きたい。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自宅での生活状況を聞き取り、使い慣れた寝具など環境を整え、安心・安眠できるように支援している。又就寝薬を内服している利用者に対しては、医師へ相談しながら調整を行っている。	○	夜間の十分な睡眠が確保出来るよう、利用者の生活リズムを整える働きかけを継続し、適度な運動や活動を促して行きたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔ながらのやりなれた仕事や、作業、歌等を聞き出し、ひとり一人の役割や楽しみ事が出来るように支援している。	○	ごみ捨てを行うというきっかけで、外を散歩するなどの機会を作り気晴らしの時間を持てるように促して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な利用者が殆どであるが、手持ちに無いと不安を感じてしまうこともあり、家族と相談し電話代くらいのお金を所持している方は数名いる。電話をかけるときは職員が手伝い、家族との連絡を支援している。買い物の時は付き添った職員が手助けしている。	○	個人の能力を把握し、買い物時は自分で支払うことが出来るような支援を行って行きたい。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者全員が個別に希望の場所に出かけることは困難である。利用者の体調や状態を見て、冬期間以外は出来る限り施設周辺の庭を散歩するなどの支援を行っている。	○	外出することがまだ可能である方々への、個別外出機会を増やしていくなどの工夫を凝らして行きたい。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	冬期間以外は月一度外出する機会を設けている。又家族との外出機会を積極的に勧めており、いつでも受けられるように支援している。	○	日常生活の会話の中で、思い出の場所や行きたい場所など探り、外出支援の計画に取り入れて行きたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙（代筆・代読）の支援は利湯者の希望に添うように行っている。	○	自分の意志を中々伝えられない方には、日常生活の談話の中で聞き出し、家族などに伝えるように工夫している。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者が気軽に来所できるように、面会の時間設定は特に行っていない。現在もデイサービス利用時代の友人と交流が図れている。	○	利用者の中には、家族との会話成立できない方も居るため、こちらから近況報告し話題提供している。今後も行って行きたい。
（4）安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを基本とし、生命に危険を及ぼす危険性があるもので、代替の可能性が無いものに関しては、家族と内容を十分に話し合い同意のもの実施している。見直しを常に行い、解除に努めている。	○	不安を取り除き、不穏・興奮につながらない様、利用者の意思を出来るだけ傾聴し、寄り添う介護を行って行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に施錠することへの弊害を十分理解しており、開設当初より自宅に居たときと同じく、自由に出いり出来るように施錠は行っていない。夜間は防犯をかねて行っている。一人で外出できない方が外へ出てしまう事を察知するために、ドアにセンサーをつけている。	○	利用者の精神状態が落ち着かず、施錠を余儀なくされる場合を考え、家族から書面において同意を頂いている。施錠することの弊害を踏まえ、施錠しない方向で今後も行って行きたい。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	内外問わず、職員は常に利用者を見守りやすい場所に配置し、利用者の様子を把握すように心掛けている。利用者からもすぐに職員の所在がわかるように努力しているが、個室であるため死角が生じ対応が遅れる時もある。	○	すぐに利用者に対応できるよう工夫して行きたい。昼夜問わず、見守り強化のため居室のドアを空けておく必要のある方につては、プライバシーを考えのれんを下げるなどの工夫を行っている。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の居室内にある、危険と思われるものは排除している。薬や洗剤、刃物の取り扱いに注意が必要なものに関しては、保管場所や保管方法を明確に決めている。又、保管場所も施錠するなど適切な体制を整えている。	○	今後も体制を崩さず、継続していく。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の利用者の状態を把握し、想定される事故や対応策を話し合い、申し送りを行っている。事故等の発生時には速やかな対応をすると共に、家族や関係機関への報告、行政機関へ報告書の提出を行い新たな対応策を検討している。	○	対応策のマニュアルを十分に活用して行きたい。毎月勉強会を実施している、今後も継続して行きたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応が速やかに行えるよう、緊急対応マニュアルが作成されている。定期的に救急救命講習を受けている。	○	今後も継続して行っていく。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年２回実施し、適切な避難方法を行えるよう、利用者と職員が一緒に訓練し、災害発生時に備え飲料水の確保や食料品の確保を行っている。	○	避難訓練時のサイレン音は利用者にとって、非常に驚かれるものであるため、開始直前まで訓練があることを伝え、安全に避難完了できるように支援して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者ひとり一人に起こりえるリスクを把握し、面会時を利用するなど話し合いの場を設け、その対応策を家族に説明している。	○	リスクマネジメントすることで生活に圧迫感を感じさせないような工夫を凝らして行きたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早期発見の為に、毎朝のバイタルチェック、毎月の体重測定を行っている。利用者の異変の兆候を見逃さないように、小さな変化も記録へ残し、看護職員、介護職員で情報の共有をし、必要に応じて医療機関への受診を実施している。	○	今後も継続して行きたい。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースにひとり一人の内服情報をファイリングしており、いつでも確認できる状態となっている。内服薬に変更が生じた場合は、申し送りノートへ記入し周知照ってを図っている。	○	職員が利用者ひとり一人の内服薬の内容を理解している。誤薬を防ぐため、ダブル・トリプルチェックを行い、一日分の内服薬セットを全職員が交代で行っている。今後も継続していく。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響をある程度理解しており、散歩や体操、水分補給、食材やメニューの内容などを工夫している。	○	便秘が何日も続かないよう、ひとり一人の排泄状況を把握し、排便を促す工夫を行っている。今後も継続して行きたい。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔内の洗浄や義歯の手入れを行っている。ひとり一人の習慣や意向を踏まえ声がけをし、能力に合わせた支援を行っている。	○	口腔内の清潔保持について、法人全体で勉強会を設け、歯科医師より直接アドバイスを受ける機会を設けた。その後も疑問が生じた際には、協力医師によるアドバイスを受けることが出来る。今後も継続して行きたい。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食・副食は栄養バランスを考慮した食事を提供できるように心掛けている。併設施設の栄養士からもアドバイスを受けながら、管理に努めている・こまめに水分補給を勧め、一日に必要な水分量を確保できるように支援している。	○	引き続き、併設施設の栄養士からアドバイスを受けながら管理に勤めて行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染症対策に関する対応やマニュアルがあり、新情報が入る都度職員へ資料の配布を行うなどし、周知徹底に努めている。媒介者となる職員の手洗い消毒の徹底、感染源となるもとの排除を徹底し、利用者の体調不良発見の差には、早期受診を心掛け対応している。	○	体調不良者を早期に発見するための細やかな観察や記録、又環境の整備に努めて行きたい。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為に台所周りの清潔保持に努め、作業にあたる利用者、職員の手洗い消毒の徹底は勿論の事、調理器具の消毒も徹底して行っている。震顫で安全な食材を確保するため、食材受け取り時には検品し確保している。	○	利用者と作業する際には、細心の注意を払って行って行きたい
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには植物や花を飾り、歩行するのに危険と思われるものを排除している。利用者、来園者が気持ちよく玄関を出入りできるように、環境を整えている。玄関外にも、花壇を設置し利用者と一緒に花を植えている。	○	利用者と一緒に花に水遣りをしたり、世話が出来るように働きかけて行きたい。又玄関の掃除なども一緒に行っていけるようになりたい。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内においても十分な光を取り込めるように、廊下と食堂には天窓を設置している。夕方でも十分な明かりが取れるような工夫をしている。各居室の換気や光の調整温度調整などはこまめに実施し、共有スペースは清潔を保ち以後五知の良い空間作りをするように心掛けている。	○	利用者の馴染みのソファーや椅子を設置するなどのスペース確保を行って行きたい。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と同じ空間に談話のスペースがあるが、少人数でもコミュニケーションをとりやすくするため、ソファーで仕切り空間作りを行っている。 又、別ユニットの利用者ともコミュニケーションが図れるように、体操やレクリエーションは共同で行い、日光浴も気の合う仲間と行えるような工夫を行っている。	○	個人、団体の行動が多い為、少人数の気の合う仲間同士の活動が活発になれるように、空間作りや機会を増やして行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には利用者個々のイメージに合わせた表札があり、居室内にも自宅から持ち寄っていただいた家具を設置、又趣味嗜好に合わせた飾り物を置いたり、仏壇の持込をしたりなど、個人に合った居室作りが出来ている。	○	家族の中にはまだ遠慮されている方も多い為、もっと関係を深めて行き利用者の過ごしやすい空間作りを勧めて行きたい。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室内の温度、湿度、臭いなど空気のよどみが発生しないように、十分な換気と温度調整、臭いの排除を照ってして行っている。	○	利用者が体調不良時には、湿度を確認し必要に応じて加湿器の設置を行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や、居室内、廊下は全てカーペットを敷いている。転倒事故につながりそうな物品は排除し、玄関先にも一人で靴の脱ぎはきが可能になれるように、椅子の設置をしている。		利用者の状況を常に考えながら、環境の整備に努めて行きたい。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室の表札は全て違う形のものを設置しており、表札のほかにその利用者が興味を引くものを飾り、自分の部屋だと分かりやすくする工夫をしている。トイレ入り口にも横からも分かるように、プレートを作り張り出している。夕方、非常口と玄関を取り違い外へ出ようとする利用者が居るため、混乱しないようにカーテンを下げるなど	○	日常生活に混乱が生まれないような工夫を凝らして行きたい。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に日光浴しながら談話できる椅子の設置をし、花壇や畑を作り、おのおのが自由に作業できるようにしている。	○	植物や畑作業に興味の無い利用者も居るため、少しでも興味を持てるように、花壇の花や畑の野菜にポップで名前を付けるなどの工夫を凝らして行きたい。

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ⅴ．サービスの成果に関する項目		
項　　目		取　り　組　み　の　成　果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　　目		取　り　組　み　の　成　果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

当グループホームでは、人間関係を第一と考え利用者同士は勿論の事、家族との関係や職員同士の関係など、幅広い視野で物事を考え理解していく姿勢を持っています。利用者が抱える認知症という病気を受け止め、決してあきらめないケアの実践をモットーとしています。施設の特徴としては、温泉設備が完備されていることと、岩木山を一望できる津軽平野に建てられ、施設の周りはりんご畑や田んぼに囲まれ、農家の多い利用者にとっては外を望むだけでも季節を味わうことの出来るようになっています。
建物は平屋ですが防災対策として、どこからでも外に出られるようにと考えられて作られた建物です。併設施設との交流も多く、足湯場の利用や大浴場の利用もできます。大浴場となりには、マッサージ器も設置されております。皮膚疾患のある方は、温泉の効能で改善が見られております。食事は利用者が自宅で食べていたメニューを取り入れたり、希望食、洗濯食（魚・肉・甘いもの・しょっぱいもの・麺類・パン）と嗜好調査を行い、行事ではバイキングのメニューも取り揃えております。